

高知県感染症発生動向調査（月報）

2021年3月

高知県感染症情報センター

高知県衛生環境研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail : 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

全国情報

第9週(3月1日～)から第12週(～3月28日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国での3月の上位6疾患の合計は18.94で2月の17.83と比べて横ばいであった。新型コロナウイルス感染症対策の活動自粛と衛生管理により日常的感染症は少ない状態が続いている。インフルエンザは15位0.03で、2月の0.05と比べて減少し、流行のないままに2020-21シーズンが終わろうとしている。

1位は感染性胃腸炎で11.02(2月1位10.79)、2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で2.99(同2位2.92)といずれも横ばいだった。3位はRSウイルス感染症で2.29(同4位1.26)と増加した。4位は突発性発疹で1.39(同3位1.41)と横ばい、5位は咽頭結膜熱で0.63(同5位0.80)と減少した。6位は流行性角結膜炎で0.62(同6位0.65)と横ばいだった。

〈新型コロナウイルス感染症 COVID-19〉

世界の患者数は図1左に示すように、4月1日には1億2882万人を、死亡者は281万人を超え、終息の見通しは立っていない。患者数を国別でみると、1位米国、2位ブラジル、3位インド、4位フランス、5位ロシア、6位英国、7位イタリア、8位トルコ、9位スペイン、10位ドイツである。

一方、世界各国でワクチン接種が進められ、有効性が報告されている。日本でも2月から、米国ファイザー社開発のmRNAワクチンの接種が開始され、効果に期待が高まっている。医療従事者、高齢者の順に優先して接種が進められている。高知県出身のワクチン専門家である中山哲夫氏は4月2日の毎日新聞で次のように述べている。「これまで日本では、ワクチンへの警戒心や不信感が根強かった。(中略) 新型コロナのワクチンでは、変化を感じる。これまでの情報によれば、ワクチンの有効性は非常に高く、副反応は重い報告もあるものの数は多くない。それらのデータと新型コロナの感染率や死亡率を合わせて考え、ワクチンの有効性が勝っている(だからワクチンを打とう)と判断する人が増えているようなのだ。(以上抜粋)」。

日本の患者数を図1右に示す。11-12月以降に増加の勾配が急峻となっていたが、2月になって加速度が緩んだが3月は2月同様の勾配を示し、下げ止まりの状態である。1月7日以降に11都府県に発出された緊急事態宣言の効果が2月になって表れた。感染者数の減りきらない一都三県においても、緊急事態宣言は3月21日に終了した。一方で、変異株が大阪、兵庫、宮城などで増加が顕著となっている。4月1日時点の国内の感染者は474,773人、死亡者は9,162人となった。

COVID-19は高齢になるほど死亡率が高い。図2に示すように、日本での高齢者における死亡率は経時的に変化がみられる。80歳以上の患者における死亡率は、昨年6月11日時点では20.1%であったが、本年2月3日には11.7%となり、徐々に低下してきていた。しかし、3月3日には13.6%となり、初めて上昇に転じた。70歳台も下降の一途をたどっていたが、2月4.4%から3月5.2%へと初めて上昇した。その理由として、医療体制逼迫の影響、ウイルスの強毒化などの機序が考えられ、今後の動向が注目される。

高齢者の感染者数増加は死亡率増大に直結するので、年齢層別患者比率の監視が重要である。図3に示すように、夏までは、20～30代の感染者が増加し、高齢者の感染は抑制されていた。しかし、11月以降は年代ごとの増加率に差がなくなり、2月は70歳以上の感染者増加が目立った。高齢者施設でのクラスター発生の関与が疑われる。

変異ウイルス株については、現在3種類が注目されている。いずれもウイルス受容体を含むスパイク蛋白(ウイルス表面を覆い、受容体であるACE2蛋白に結合する)に関わる遺伝子変異を起こした株である。①Variant of Concern(VOC)-202012/01: 英国での急速な感染者増加に関与したと推測され、伝播のしやすさを最大70%増加さ

せる。この株が重症例を増加させるかについては意見が分かれており、ワクチン効果に差異が生ずるかについても不明である。②501Y.V2：南アフリカ保健省が2020/12/18に公表した新規変異株で伝染性が5割程度高いとされるが、重症化をもたらすとの根拠は乏しく、ワクチン効果への影響についても不明である。③501Y.V3：1月6日にブラジルから日本に入国した4人から検出された株で、重症化やワクチン効果への影響については不明である。いずれの変異ウイルス株も既に日本で検出されている。これら変異株の蔓延を防ぐ水際対策などの対応がとられたが、既に全国で検出されるようになってきている。直近の1週間（3月22日～28日）では、変異株の検出率は、兵庫県で73%、大阪府54%、愛媛県83%と高く、感染者急増（第4波）に関与しているようにみえる（<https://www.mhlw.go.jp/content/000764624.pdf>）。一方で、東京で3%、宮城0%、沖縄0%など、感染者は多いが変異株の検出率の依然低い地域もある。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	9週	10週	11週	12週	計
1	感 染 性 胃 腸 炎		2.92	2.93	2.62	2.55	11.02
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.77	0.78	0.75	0.69	2.99
3	RS ウ イ ル ス 感 染 症		0.44	0.58	0.58	0.69	2.29
4	突 発 性 発 疹		0.35	0.36	0.32	0.36	1.39
5	咽 頭 結 膜 熱		0.17	0.15	0.15	0.16	0.63
6	流 行 性 角 結 膜 炎		0.15	0.17	0.15	0.15	0.62

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の3月の上位6疾患の合計は12.58で2月の10.67と比べて少し増加したが、全国よりも少なかった。

1位は感染性胃腸炎で7.24（2月1位5.78）と少し増加したが全国よりも少なかった。2位はヘルパンギーナで2.04（同3位1.07）と増加し、全国よりも多かった。3位は突発性発疹で1.21（同4位1.06）よりもわずかに増加したが、全国よりも少なかった。4位は水痘で0.78（同6位0.60）と増加し、全国よりも多かった。5位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で0.67（同2位1.17）と減少し、全国よりも少なかった。6位は手足口病で0.64（同7位0.57）と僅かに増加し、全国よりも多かった。

<高知県におけるCOVID-19>

高知県におけるCOVID-19の月別患者数を図4に示す。昨年12月に入って報告が急増し、511人/月に昇った。その後は1月184人、2月37人と減少したが、3月は33人と下げ止まっている。3月になって2件のクラスターが発生し、いずれも高齢者施設であった。高齢者へのワクチン優先接種が急がれる。図5に12月1日以降の日毎の公表感染者数と感染経路不明者数を示す。3月に県内でも英国型の変異株が3件検出された（<https://www.mhlw.go.jp/content/000764624.pdf>）。4月2日時点で感染者は919人、死亡は19人である。

12月2日に、県の対応ステージを「注意（黄）」から「警戒（オレンジ）」に、12月9日には「特別警戒（赤）」引き上げた。対策が奏効して患者数が減少したので、1月22日に「警戒（オレンジ）」に、3月4日には「注意（黄）」に引き下げ、このステージで4月を迎えている。四国の他の三県では患者数が激増しており、引き続きマスク、手洗い、三密の回避の基本を徹底したい。なお、重症患者の受け入れ施設として、これまでの高知医療センターに、近森病院と高知大学病院を加えて、3病院で最大24人の重症患者を受け入れる体制としたことが、3月25日に公表されている。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	9週	10週	11週	12週	計
1	感 染 性 胃 腸 炎		1.96	1.50	1.57	2.21	7.24
2	ヘルパンギーナ		0.46	0.68	0.61	0.29	2.04
3	突 発 性 発 疹		0.32	0.14	0.32	0.43	1.21
4	水 痘		0.14	0.00	0.57	0.07	0.78
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.14	0.14	0.14	0.25	0.67
6	手 足 口 病		0.21	0.39	0.04	0.00	0.64

図1. 2021年4月1日時点でのCOVID-19（厚生労働省HPから）

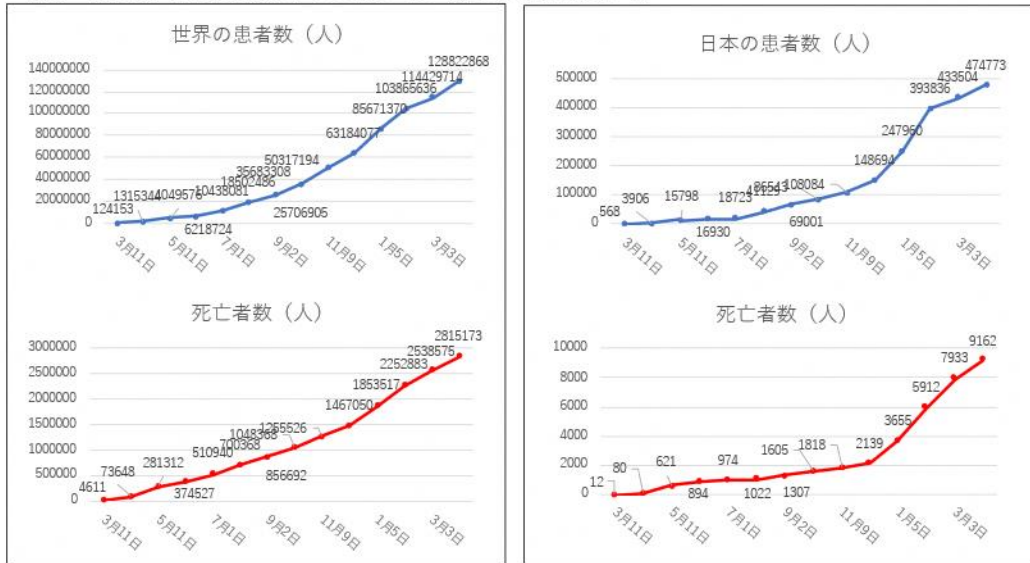


図2. 高齢者におけるCOVID-19死亡率の経時的推移

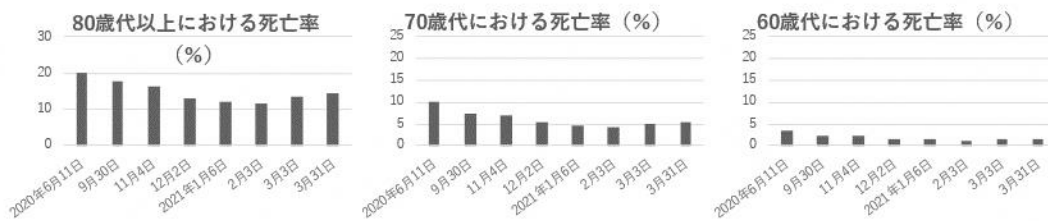


図3. 経時的な年齢層別感染者数

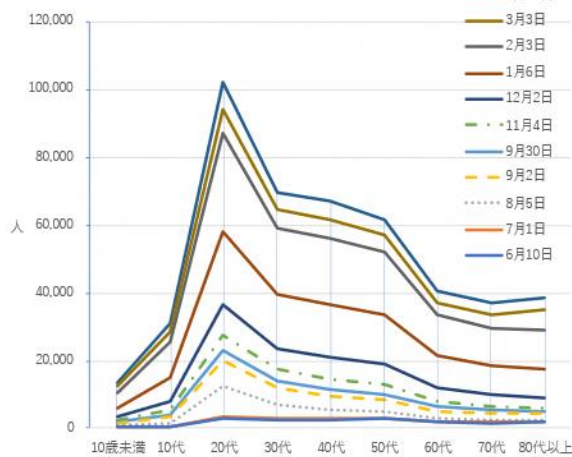


図4. 高知県のCOVID-19月別患者数(人)

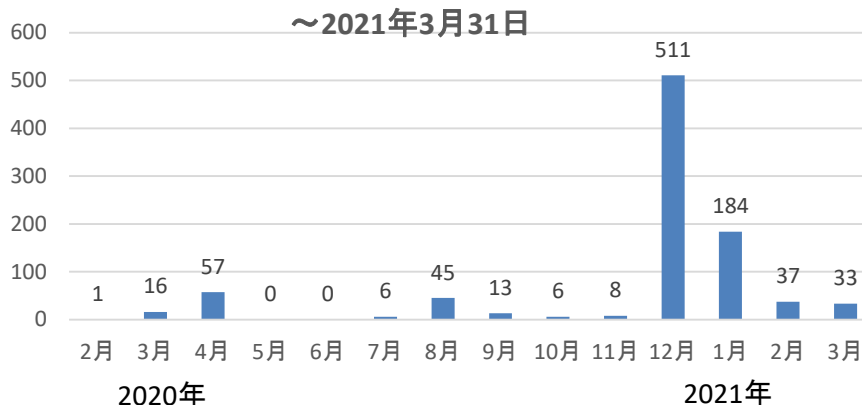
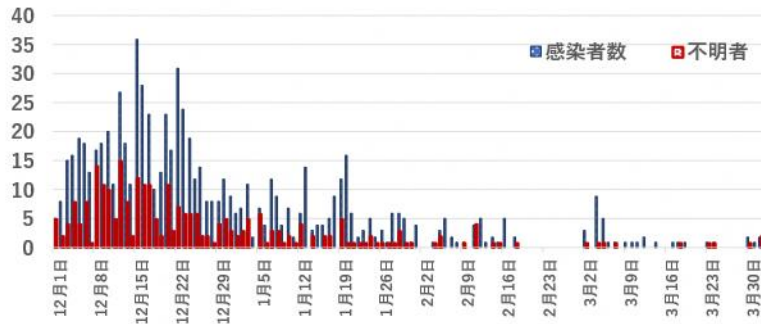


図5. 高知県の患者数と感染経路不明者数



2. 全体の傾向

麻疹、風しんの報告無し。衛環研はCOVID-19流行による業務増大のため、感染症発生動向調査としての他ウイルス検出は実施できていない。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 1名 (2月 1名)。2019-20年シーズンは対コロナ自粛の影響もあってか小さな流行で終息した。2020-21年シーズンは、9月、2月、3月に各1名のみの報告で、ウイルスも検出されていない。全国では、10月106名、11月141名、12月328名、1月266名、2月249名、3月は120名が報告されたが、本格的な流行は起きずに終息に向かっている。COVID-19流行との兼ね合いでインフルエンザの流行動向には例年以上に注目されたが、2020-21年の流行シーズンは、ついに起きないままに春を迎えた。高知市で30歳台が1名報告された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 11名 (2月 12名)。3月としては平年並みの報告数だった。須崎、幡多、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 19名 (2月 33名)。1月2月3月と同時期としては過去10年間で最も少ない報告数だった。中央西以外の県下全域から報告があり、須崎、高知市、幡多、中央東、安芸の順に多かった。

4) 感染性胃腸炎

報告数 203名 (2月 162名)。2020年2月は平年並みだったが、3月以降は、同じ時期として過去10年で最低の報告数で推移している。県下全域、特に幡多、須崎、高知市、安芸から多く報告された。

5) 水痘

報告数 22名 (2月 17名)。2014年10月からの予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。高知市、中央東、幡多から表記の順に多く報告された。

6) 手足口病

報告数 18名 (2月 16名)。2020年は7月と10月にピークがあり二峰性であったが、流行規模は平年並みで大きくはない。中央東、高知市、中央西から表記の順に多く報告された。

7) 伝染性紅斑

報告数 8名 (2月 6名)。2020年9月以降は1けたの報告数で推移している。中央西、高知市、中央東の順に多く報告された。

8) 突発性発疹

報告数 34名 (2月 30名)。想定内の変動で推移している。

9) ヘルパンギーナ

報告数 57名 (2月 30名)。初夏の感染症だが、2020年は遅れて流行した。高知市、中央西、中央東、安芸

から報告された。流行が遅かったために10～3月は過去10年で最多だったが、通年でみると大きな流行ではなかった。11月にCoxsackievirus A4型が2件、A10型が1件検出されている。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 3名(2月 1名)。少ない数で推移している。高知市と中央東から報告された。

11) RSウイルス感染症

報告数 0名(2月 0名)。2020年は3月以降減少し、本来ならば流行期であるにも関わらず、11月から異例のゼロが続いている。コロナ自粛・衛生管理により流行がない。ただし九州、岩手、大阪ではまとまった数の報告がある。

12) 流行性角結膜炎

報告数 1名(2月 3名)。高知市で1名報告された。2020年の年間報告数は過去10年間では、2015年に次いで少ない年であった。

13) 細菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(2月 0名)。1年に10名前後の報告で推移していたが、2017年以降は6名以下で推移している。本年は1例も報告がない。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因とする小児例の報告は1例もなく、成人例も近年減少している。

14) 無菌性髄膜炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 0名(2月 0名)。年間20-30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年2名、2021年も0名と少数で推移している。

15) マイコプラズマ肺炎(基幹定点の報告疾患)

報告数 2名(2月 0名)。高知市で2名報告された。同時期として過去10年で最も少ない報告数である。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 25名(2月 16名)。平年並の推移である。高知市、中央東、安芸、幡多から報告された。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名(2月 0名)。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例、2017年は2例、2018年は1例、2019年は2例の報告があり、2020年は0例であった。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患（令和3年3月）

類型	病名	報告年																				総計					
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018		2019	2020	2021		
2	結核											131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	12	1822
	計											131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	12	1822
3	コレラ	1					1								1												3
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2												2						27
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9	1				207
	腸チフス			1					1									1					1				4
	バラチフス	2																									2
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10	1	0		243	
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1				2			34	
	E型肝炎												1		1								2	1		5	
	オウム病				1		1														1					3	
	Q熱	1	1	2				1																		5	
	重症熱性血小板減少症候群																3	11	3	7	5	5	9	6	2	51	
	つつが虫病			9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	3	3		4	11	2	3	3		93	
	デング熱													1					3	2	1			2		9	
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	23	1		196	
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1													6	
	マラリア								2							1							1			4	
	レジオネラ症			2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	9	7	8		81	
	レプトスピラ症												1		4	2	1					1				9	
		計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	41	3	496	
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1	3	2	2	3			7	3	2	5	3	3			47		
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1				2	1	1	2	1	61	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																	7	19	21	22	21	20	10	1	121	
	急性弛緩性麻痺																						1	2		3	
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1	1	2	1		21		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2				2	1	1	3		35	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1				1		1	3			1		3	5	6	2	2	2	2	30	
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	6			81	
	ジアルジア症			1	2	1						1			1	1							1			8	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																	1	5	3	4	7	3	1		24	
	侵襲性肺炎球菌感染症																1	4	12	16	18	14	22	11	3	101	
	水痘（入院例に限る）																	2	1	1	3			3		10	
	髄膜炎菌性髄膜炎											1														1	
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	35	16	247		
	播種性クリプトコックス症																			1	3	5				9	
	破傷風			3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1		2	3	1	36	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1								1							1		1	1			5	
百日咳																						173	172	35	380		
風しん												1	1			4	9	1				3			19		
麻疹													5												5		
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	112	24	1244		
新型	新型インフルエンザ																									34	
	計																									34	
動物	鳥インフルエンザ																									1	
	計																									1	
	総計	61	48	67	42	51	53	47	61	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	214	39	3840		

高知県感染症情報 月報 (63定点医療機関)

2021年 3月

定点名	疾病名	保健所							計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				
内科・小児科	インフルエンザ			1				1	1	89	
小児科	咽頭結膜熱		2	3		4	2	11	12	10	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	4	7		4	3	19	33	244	
	感染性胃腸炎	14	24	78	6	18	63	203	162	245	
	水痘		5	14			3	22	17	16	
	手足口病		8	9	1			18	16	33	
	伝染性紅斑		2	4	2			8	6	42	
	突発性発疹	4	5	14	2	6	3	34	30	31	
	ヘルパンギーナ	2	10	37	8			57	30	3	
	流行性耳下腺炎		1	2				3	1	17	
	RSウイルス感染症										49
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎			1				1	3		
STD	性器クラミジア感染症		1	4			1	6	1	2	
	性器ヘルペスウイルス感染症										
	尖圭コンジローマ		1					1	1		
	淋菌感染症										
基幹	細菌性髄膜炎										
	無菌性髄膜炎										
	マイコプラズマ肺炎			2				2		12	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)										
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る)								1		
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2	2	19			2	25	16	23	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症										
	薬剤耐性緑膿菌感染症										
計		23	65	195	19	32	77	411	330	816	
前月		13	60	166	31	19	57				
前年同月		27	136	407	80	61	105				
小児科定点数		2	7	9	3	2	5				

高知県感染症情報 月報 (63定点医療機関)

2021年

3月

定点当たりの人数

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ			0.07				0.02	0.02	1.86
小児科	咽頭結膜熱		0.28	0.33		2.00	0.40	0.40	0.44	0.32
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	0.57	0.77		2.00	0.60	0.67	1.17	8.13
	感染性胃腸炎	7.00	3.43	8.66	2.00	9.00	12.60	7.24	5.78	8.17
	水痘		0.71	1.55			0.60	0.78	0.60	0.53
	手足口病		1.14	1.00	0.33			0.64	0.57	1.10
	伝染性紅斑		0.28	0.44	0.67			0.29	0.22	1.40
	突発性発疹	2.00	0.71	1.55	0.66	3.00	0.60	1.21	1.06	1.03
	ヘルパンギーナ	1.00	1.42	4.11	2.67			2.04	1.07	0.10
	流行性耳下腺炎		0.14	0.22				0.11	0.04	0.57
	RSウイルス感染症									1.64
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.99	
STD	性器クラミジア感染症		0.50	2.00			0.50	1.00	0.17	0.33
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ		0.50					0.17	0.17	
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎									
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎			0.40				0.26		1.51
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)								0.13	
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2.00	2.00	3.80			2.00	3.13	2.00	2.88
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
小児科定点分計		10.50	8.68	18.70	6.33	16.00	14.80	13.40	10.97	24.85
前月		14.00	7.42	14.65	11.00	5.75	10.20			
前年同月		10.75	18.43	32.71	24.67	30.00	20.66			

注目される疾患別月別推移

